

Chin Fung Kee 元国際土質基礎工学会副会長の死を悼む

1981～1985年の国際土質基礎工学会副会長 Chin Fung Kee (チン・フン・キー) 教授が1990年8月29日、短期間の病気の後逝去されたとの報せをAITの Balasubramanian (バラスブラマニマン) 教授から受け大きなショックを受けました。土質工学会会員の皆様と共に謹んで哀悼の意を表すものであります。

1979年シンガポールで行われた第6回アジア地域会議の際行われた会議で副会長のインドの Mohan (モーハン) 博士から Chin 教授が最適任であるとの推薦があったので、日本はただちに賛成したということがあります。

1981～1985年の国際学会会長は de Mello (デメロ) 博士であり学会の運営方法の改革、定款改正などの提案がなされ、Steering Committee や Executive Committee で激しい議論が戦わされました。この間にあって学会のため、アジア地域のために誠に適切な意見を述べられ、副会長としての職責を立派に果たされました。我が日本の学会もその恩恵をこうむったことはもち論であります。

Chin 教授のことは我が国では余り知られていないので、以下に簡単に紹介します。

教授は1920年マレーシアのパナン島の生れで、1939年にシンガポールの Raffles College で一般教養を勉学中第二次大戦が始まり、学業を中断し、1946年に優秀な成績で同校卒業。1948年にイギリスのベルファストの Queen's University 土木工学科入学、1952年に同科を首席で卒業、修士コースを終えて1954年にマレーシアに帰られました。

2年間州政府に勤務し、灌漑事業、特に橋梁、運河、水理構造物、施設の維持補修、請負工事の監督、測量、調査、研究に従事されました。1956年にマレー大学講師となり、工学部の設置に貢献されました。1957年にマレーシアが独立し、1958年にはクアラルンプールにマレーシア大学が設立されました。ここで優秀な学生を養成されたので、卒業生はイギリスの大学の修士コースに入る資格が与えられるようになりました。数多くの論文を発表され、他方、マレ

ーシア政府の名誉コンサルタントとして国の事業にも関係されました。特に軟弱地盤上の基礎、超高層ビルについてすぐれた業績を挙げられました。1973年に大学を退職し、名誉教授となりましたが、大学での仕事は継続さ

れました。1980年頃から完全に大学を離れ、コンサルタントの仕事に専念され、亡くなるまで Jurutera Konsultant (SEA) Bdn, Bhd. の主任技師でありました。

最後に教授の受けられた輝かしい賞について記します。

Fellow of the Institution of Engineers, Malaysia,
Institution of Engineers, Singapore,
Institution of Engineers, Ireland,
Institution of Civil Engineers, Britain,
Institution of Structural Engineers, Britain,
Past President, Southeast Asian Geotechnical Society,

Vice President of ISSMFE.

王様から賞を貰い TAN SRI という最高の称号を得られました。1985～1987年には Chairman of the Commonwealth に選任されましたが、これはイギリス人以外では初めてということでした。教授がいかにすぐれた人であったかはこれをみても十分わかる気がいたします。

国際学会としてこのような人を失ったことは大きな損失ではありますが、日本の学会員とともにご逝去をいたみご冥福を祈るばかりです。

(文責：福岡正巳 元国際土質基礎工学会会長)

(原稿受理 1990.12.27)

